

観光甲子園説明会参加報告

主催：全国高等学校観光選手権実行委員会

＜2018年5月25日 三ノ宮研修センター＞

新学習指導要領

今回の改定では、グローバル化とAIの進化への対応についての必要性とともに、何をどのように学ぶのかといった教育の基礎・基本について、向き合うことが求められていると考える。商業科についても同様であるとともに、それらの課題への先端を進むことが肝心であるといえる。特に、観光庁・クールジャパン機構の創設に具現化されているように、観光産業の健全な育成は国にとっての課題であり地方創生の掛け声のもと、地域社会の持続可能性を左右する産業基盤となり得る。その点は、今回の改定で「観光ビジネス」が新設されたことにも表されている。

報告者：高知県立安芸桜ヶ丘高校 教諭 金子 宏

観光教育と地域理解・自己理解

地元地域の若年層が地域の由来や魅力を正しく理解し、地域の未来像を思い描く機会は貴重であり、現在では、その機会の提供は地域の学校にとつての義務とも言える。地方では、高齢化の進行と若年人口の流出等とも相まって過疎化の進行に歯止めがかからない。10年後、20年後の地域コミュニティの存続自体が危うい地域も続出している。

本県では、児童生徒の減少に伴い学校の再編計画が策定され、図らずも地域の賑わいの場の喪失に拍車をかける状況も生まれている。

本校としては、県東部の中心地でもある安芸地域の専門高校として、地域との連携をより密にした人材の育成を目指すとして、安芸市・安芸高校・安芸桜ヶ丘高校の3者協定を締結した。今後は更に地域密着型の実践教育を進めることで、地域理解とともに自己のアイデンティティの軸をしっかりと捉えた人材の育成に努めることが肝要であると思う。地域理解を通じて、そこで生まれ育った今の自分や自分の祖先を知り、未来の自分を削り出す体験に繋げる。そのことでのみ、この地域の未来を担う人材の育成に繋がりにくいと考えられているからである。

地域理解の“ツール”として観光教育は最適である。「地域の光を観る」ここに住まう者にとっては当たり前すぎて見過ごしている日常の中にこそ「光」はあり、それらを再発見しブラッシュアップする取り組みは、発想力と行動力を養い先達と繋がり得るのである。本校は地元率100%の生徒達にそれぞれの地域のルーツや魅力を探らせる学びを通じて、自己理解を促しこの生徒達の中から、将来の地域を担う人材を輩出させるべき任を負っていると言える。

全国高等学校観光選手権大会について

「全国高等学校観光選手権大会」（愛称：「観光甲子園」）は、高校生がフィールドワークや地域住民のヒアリングで見つけた「地域の光」をもとに、自分たちで作上げたオリジナルな観光企画を競い合う全国大会であり取り組みを通じて、生徒達は地元地域の魅力を再発見する機会となる。また、本年度は、昨年度までのインバウンド企画とともに、ハワイ州観光局との共催でアウトバウンド企画の課題コースも創設され注目されている。



観光甲子園説明会次第

観光甲子園説明会	
日時：2018年5月25日	場所：三ノ宮研修センター
12:30 受付開始	
13:00 開会	司会 事務局長 山本
挨拶	・全国高等学校観光選手権大会実行委員長 神戸山手大学副学長 小野田金司 第9回グランプリ 青森県立久井農業高校 校長
13:15 訪日部門説明	小野田金司
13:55 質疑応答	
14:05 海外部門説明	株式会社BUZZPORT 代表取締役 神戸山手大学観光文化学科客員教授 江藤誠晃
14:35 質疑応答	
14:45 閉会	

観光甲子園説明会では

まず、全国高等学校観光選手権大会実行委員長（神戸山手大学副学長）小野田金司氏による概要説明があった。大会趣旨と前年度グランプリ校の青森県立久井農業高校のプランニングを例にあたって、着想やエントリーシートの作成ポイントを解説された。また、本年度のインバウンド部門は7 DAYでの企画を求めた点について、我が国におけるインバウンド観光産業の推移や国としての今後の推進方針を示しながらその意図を説明された。

続いて、(株)BUZZPORT代表取締役（神戸山手大学客員教授）江藤誠晃氏によって、本年度新設のアウトバウンド部門について説明された。特に江藤氏の異文化交流等の“世界観”に基づく企画新設の意図や背景から、この部門のプランニングの要点が明確に掴めたことは、この説明会参加の意義であり成果であった。また、図らずもハワイ州観光局やハワイの日系コミュニティとは個人的な繋がりもあり、ハワイ移民150年の記念企画に縁を感じ江藤氏の想いと共に生徒への情報提供を行い最善の成果を導き出したい。良くも悪くもこの企画へのエントリーを通じて、近く短くなりがちな生徒の視野を広げさせ、地域や自己の将来を遠望する良い機会となるような機会の提供を心掛けたい。

その他、参加者等

本説明会には、約50名の参加があったと聞く。Weekdayの午後の設定ということで、中国・関西方面からの参加者が多かった。本県からも山田高校の前田教諭の姿があり情報交換をした。岡山県と沖縄県からは、取り組みに意欲を示す高校生も参加してきていた。特に、「沖縄には観光しかないから。」「この取り組みを学校の目玉にしたい。」と語る沖縄県具志川高校の生徒・引率教員の意気込みを強く感じたものである。

上述のように、私としては地域理解学習を通じて、将来の担い手の卵をより力強く、より多く育て、地域の担い手のバトンを手渡しする意気込みであり、本校にとって期待されている事であるといえる。その点から、数多くある他の「高校生の企画もの」とは一線を画して、本大会への参加とそこに至る背景学習に取り組ませたい。

以上の内容について報告させていただきます。この説明会への参加が、今後の取り組みの弾みとなったことを申し添えます。この度は、観光甲子園説明会への旅費補助を頂き誠にありがとうございました。

私たちのまちは 外国人は呼べるか 7-DAY INBOUND TOUR 訪日客滞在型ツアープランコンテスト

訪日外国人客は4000万人に迫る勢いですが、日本に長期滞在するインバウンドツアーは十分とはいえません。自分のまちに魅力を感じるのはどんな外国人か、ターゲットを決めて、彼らが1週間滞在するツアープランを高校生の自由な発想で提案してください。地域のストーリーに高校生の新しい感性を加えて新しい光を輝かせましょう！

2020年は 訪日外国人客目標4000万人

東京オリンピック・パラリンピックの開催される2020年には、4000万人の外国人が日本を訪れ、日本各地で長期滞在するようになります。あなたのまちにはどんな外国人が来るでしょう？ 訪れた外国人が来てよかった、もっと滞在したいと思うような長期滞在プランを考えてください。決勝大会のプランの最優秀賞を応募します！

ハワイから 世界が見える

スピーチ&現地取材企画コンテスト

年間938万人もの旅行者が訪れるハワイ諸島は、今でこそ世界を代表する観光地ですが、その後にはおよそ1500年前の人類の冒険から18世紀後半のハワイ王国誕生やアメリカ合衆国40番目の州となった20世紀の激動を経て現在に至る波瀾万丈の歴史が流れています。美しい南国の島々への旅は視点を広げることで世界史を学ぶ時空旅行となります。

2018年は ハワイ日系移民渡航150周年

ハワイには多数の日本人が暮らしていますが、そのルーツは明治元年に横浜から船でハワイへ渡った「元年組」と呼ばれる人々です。観光甲子園では明治以降の日本近代化と並行して進んだ日本・ハワイ交流史150年の節目となる記念イヤーに海外部門を新設。ハワイの歴史と文化を学ぶことで「世界へ飛び出す」きっかけをつかんでください！

全国高等学校観光選手権
<http://www.kanko-koshien.com/>